

水土里情報活用ニュース・レター

第 138 号

2020/1

目 次

1. 被災農地の復旧状況を見える化（岩手県） …… 1
2. LGWAN 回線とインターネット回線双方から利用可能な水土里情報クラウドシステムの導入について紹介します（神奈川県） …… 3
3. 水土里情報を活用した制水弁マップについて紹介します（滋賀県） …… 5
4. 水土里 Maps における法務局登記情報の活用について（岡山県） …… 7
5. タブレットを利用した農地利用状況の現地調査について紹介します（長崎県） …… 9

■お問い合わせ先（全体）

農村振興局整備部設計課計画調整室 長期計画班 三田村、北條（電話番号）03-6744-2201

タブレットを利用した農地利用状況の現地調査について紹介します

今回紹介する団体：雲仙市農業委員会、水土里ネット長崎

取組概要

内容： 水土里情報システムに登録されている農地筆の情報と農業委員会が管理している農家台帳の情報を突合し、連合会で現地調査用（タブレット）のデータを作成し、農業委員会で現地利用状況調査を行っている。

調査には、連合会と地元企業が共同で開発した現地調査用のアプリ『水土里 NEXT』を利用している。『水土里 NEXT』は調査項目など利用目的に応じて自由に作成できるため、現地調査を効率的に行うことができる。

経緯： 雲仙市は旧7町が合併した市で、毎年、農地利用状況調査を行っているが、今までは、地図を印刷した紙ベースでの調査だったため、市全域を34人で延90日～100日かけて調査を行っていた。

そのような中、人件費の削減と作業の効率化を図るため、平成27年度よりタブレットを利用した現地調査を行うこととなった。



タブレット画面

OBJECTID	541	備考	
KEY	吾妻町布江名/	農振法コード名称	農用地区域内
旧町名	吾妻町	H30調査結果	黄
大字名	吾妻町布江名	調査日	<input type="text"/> クリア
小字名	元宮ノ原	農地の区分	黄
表示地番		作物一覧	<input type="text"/> クリア
所有者		調査員コメント	
台帳地目	畑	H30意向結果	
台帳地積		予備1	
農地地目	畑	予備2	
現況面積		予備3	

調査項目は利用目的に応じて設定可能

取組による効果

- ・ 導入前は現地調査前に市内全体図を作成、印刷していたが、紙ベースでの図面が不要になり、作成にかかる費用、人件費の削減が図られた。
- ・ 操作等も容易であり、現地調査にかかる日数が短縮された。(導入前 90~100日 導入後は 70 日前後)
- ・ 現地調査前後の地図作成、データ整理にかかる時間、人件費の軽減が図られた。(導入前 7町×30日=210日必要だったが、導入後は10日程度)
- ・ GPS機能を利用することにより、現場での位置確認ができ調査精度も向上した。
- ・ 調査データを水土里情報システム (WebGIS) に取り込むことで年度別管理が可能となり、担当職員が異動しても、以前のデータを迅速かつ容易に確認することができる。

【年度別管理図】



年度ごとに農地の利用状況を色分けし保存することができ、過去の利用状況の確認が迅速に行える

今後の活用予定

農地利用状況調査以外に中間管理事業（農地の賃借）や水田調整（作付、作物の状況）等の現地調査にも使用されており、今後も様々な現地調査に利用が期待される。

GISシステムのバージョン情報

水土里情報システム : Ver. 3 (クラウド運用)
水土里 NEXT (タブレット用アプリ)

■お問い合わせ先 (全体)

長崎県土地改良事業団体連合会 総務部 会員支援課 095-823-3101 (代)